

2018年度 日本頭蓋顎顔面外科学会

専門医認定試験

(お願い)

座席の指定はありません。

前方から順に着席してください。

試験時間	16:30	～	17:00
------	-------	---	-------

1. 13才男性、喧嘩にて左眼部を殴打され直後より嘔気、嘔吐、複視、血性鼻汁の症状がある。冠状CT像にて左眼窩底の線状の骨折を認め、眼窩内組織はtrap状の骨片に挟まれている。この症例の治療で正しいのはどれか

- a) 保存的治療
- b) 2ヶ月症状を観察し手術適応を決定する
- c) 上転が得られるまで左眼球をtractionする
- d) 可及的早期に手術的に拘扼を解除する
- e) 上顎洞を穿刺し尿道バルーンを挿入する

2. 下顎骨関節突起部骨折につき誤っているのはどれか

- a) しばしば耳出血が認められる
- b) 下顎骨骨折のうち比較的頻度が高い
- c) 両側性では下顎の後退がみられる
- d) 小児では保存的治療を原則とする
- e) 骨頭側骨片の前内方への転位は内側翼突筋の作用による

3. 蝶形骨に接していない骨はどれか

- a) 篩骨
- b) 涙骨
- c) 前頭骨
- d) 口蓋骨
- e) 側頭骨

4. Le Fort I型上顎骨切り前方移動術による軟部組織の形態変化について誤っているのはどれか

- a) 鼻翼幅は拡大する
- b) 鼻尖は上方回転する
- c) 上口唇は平坦化する
- d) 鼻翼は前方に移動する
- e) 軟口蓋は後方移動する

5. 顔面への骨および軟骨移植について誤っているのはどれか

- a) 唇裂鼻変形には、鼻中隔軟骨移植が多く用いられる
- b) 顎裂部移植には、腸骨海綿骨が多く用いられる
- c) 眼窩底骨折には、骨移植も軟骨移植も用いられる
- d) 小耳症の耳介形成には、VI～VIII肋軟骨が多く用いられる
- e) 乳児の頭蓋骨欠損には、頭蓋骨外板移植が用いられる

6. 脳神経外科開頭術後の頭蓋骨欠損について正しいものはどれか

- a) 前頭骨骨弁への感染例では前頭洞粘液嚢腫を考慮する
- b) 再建材料として健常部頭蓋骨を用いることは無い
- c) 遊離皮弁による再建適応はない
- d) ハイドロキシアパタイト人工頭蓋は感染に強い
- e) いわゆる「sinking flap症候群」は脳機能に影響しない

7. 顔面神経・表情筋・顔面神経麻痺に関する以下の記述で誤っているものはどれか

- a) 顔面神経は、舌の前2/3の味覚を支配している
- b) Hunt症候群では、発症早期からの表情筋を動かす練習は推奨されていない
- c) Kuhnt-Szymanowski法は、眼瞼形成術の一つである
- d) 表情筋には筋紡錘が存在しない
- e) Hunt症候群後に病的共同運動が生じる患者は、20%未満である

8. 眼瞼下垂に関連した記述で正しいのはどれか。 2つ選べ

- a) 先天性眼瞼下垂の治療には挙筋前転術が第一選択である
- b) MRD 1 が 3 mm以下を、定量的評価基準の一つとして使用されている
- c) 上眼瞼挙筋は、眼球の後方、上眼窩裂の上方から起始する平滑筋である
- d) 先天性眼瞼下垂は、眼瞼下垂以外の異常を伴わない単純性が90%以上である
- e) 後天性眼瞼下垂の治療には挙筋前転術が有効であるが、整容的な配慮も重要である

9. 粘膜下口蓋裂に関係のないものはどれか

- a) 口蓋垂裂
- b) 正中鼻裂
- c) 鼻咽腔閉鎖不全
- d) 軟口蓋正中部の菲薄化
- e) 硬口蓋後縁正中部の骨欠損

10. Hemifacial microsomiaで正しいのはどれか

- a) 顔面の非対称性は成長により寛解する
- b) 顔面裂や口蓋裂を伴うことがある
- c) 下顎窩の形態には左右差がみられない
- d) 口唇裂・口蓋裂よりも発生頻度が高い
- e) Pruzansky-Kaban分類ではType I が最も重篤な表現型を呈する